

第4回シンポジウム「健康と自然免疫」を開催

日 時 2015年3月27日(金) 13:00～17:10
場 所 笹川記念会館(東京都港区三田3-12-12)

超高齢化社会を迎え、「病気になってからの治療」から「病気の予防」への転換により、「健康で長寿」の達成が求められており、未病や予防などに向けた新たな視点での健康維持に関する研究が広がりを見せつつあります。

こうしたパラダイムシフトの動きなどを踏まえ、「自然免疫制御技術研究組合」では、大きな社会的課題とされている「健康寿命の延伸」に直結する「自然免疫」の果たすべき役割などを多くの皆さまに紹介することを目的として、本年3月27日、『健康と自然免疫』というテーマで第4回シンポジウムを開催いたしました(参加者は、健康食品企業・一般市民など146名)。

当日は、本組合代表理事の杉源一郎氏の開会挨拶、経済産業省、(一財)バイオインダストリー協会の来賓挨拶に続いて、藤田紘一郎氏(東京医科歯科大学名誉教授)、西平順氏(北海道情報大学教授・健康情報科学研究センター長)、丹羽正幸氏(医療法人社団丹伎会丹羽クリニック院長)からご講演を頂いた後、パネルディスカッションが行われました。



まず、藤田氏からは、「アレルギー病はなぜ増えたか～きれい好きの功罪検証～」と題して、アレルギーやガンに関わる免疫力と自然との共生・長寿社会の生活環境との関連、健康で元気な社会についてご講演を頂きました。時折、ジョークを交えながら軽妙な語り口調で、腸内細菌の役割、免疫力の高めるための方法などについて、分かりやすくお話を頂きました。



続いて、西平氏から、「北海道における食品臨床試験の事例紹介と将来展望」と題して、平成25年4月からスタートした「ヘルシーDo」(北海道食品機能性表示制度)において食品の科学的エビデンスを評価するシステムとして活用されている臨床試験システムの活動状況ならびに今後の展開方向などについてご講演を頂きました。

さらに、丹羽氏からは、「今後の医療は健康増進により病気を治療する融合医療を用いて人が本来持っている自然治癒力を高めることが重要である」との考えに立ち、「融合医療・自然治癒力」という演題で、細胞賦活療法、西洋医学、筋骨格系医学、栄養療法などを融合させた独自の治療法を中心にお話を頂きました。



3氏の講演に続いて、講演の座長をつとめられた杉氏の司会進行により、本シンポジウムの主題である「健康と自然免疫」を題材として、パネルディスカッションが行われました。



ディスカッションでは、フロアからの「腸内細菌と普通の病気との関係は?」、「腸管以外での細菌については、どう考えればよいのか?」といった質問を皮切りとして、健康維持における腸内細菌の重要性、機能性食品の普及に必要な不可欠なエビデンス、自然免疫が健康に果たすべき役割などについて、3氏から意見が述べられ、これからの研究分野である「自然免疫」について熱心な議論が展開されました。こうした議論の中で、藤田氏は「トータルとして遺伝子は環境によって修飾されるといった考え方も重要である」、西平氏は「機能性食品の普及には、皆さんが納得するエビデンスが必要だが、現実には不足している。今後は、データ蓄積が重要である」、丹羽氏は「胃腸関係を良好に保つことが健康維持では極めて重要である」といった点を強調され、最後に、杉氏が本組合の活動への支援をお願いして締め括りました。

このように、今回のシンポジウムは、講演からパネルディスカッションに至るまで、内容の濃いものとなり、閉会挨拶では、本組合副代表理事の上田和男氏が、講師ならびに参加者に対するお礼を述べ、終了となりました。